

この記事では、市内にある高等学校などにフォーカスして、特徴的な取り組みや部活動などを紹介します！

VOL.3

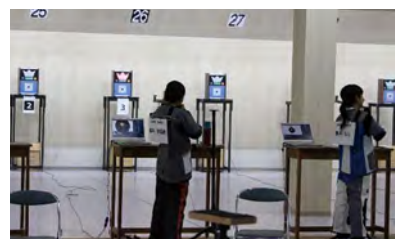
放課後ジャーニー IN 西城紫水高校



1_インタビューに協力いただいた皆さん(左から射撃部 廣本杏琉奈さん、栗本らさん、奥津佑美佳さん 神楽部 清水藍斗さん) 2_厳かな空気に包まれた三次市鷲神社の境内で力強くも丁寧な舞を奉納 3_ぼんぼこ山保育園の園児たちが見守る中の演舞 4_互いに声を掛け合いながらフォームを確認し合い、細かな調整を重ねる部員たち



静まり返った射場に張りつめた空気が漂う中、的を見据える部員の視線は真剣そのもの。一発ごとに呼吸を整え、集中力を高めながら、基本動作を丁寧に確認します。



練習の成果を発揮すべく、いざ大会へ。張りつめた緊張感の中でも落ち着いた構えを崩さず、一発一発に集中する姿が印象的でした。



地域の高齢者が集う「絆敬老会」の会場で、日頃の感謝の気持ちを込めた演舞を披露。会場を温かな拍手と笑顔で包み込みました。

西城紫水高校には、精密さを極める「射撃部」と、地域の伝統を受け継ぐ「神楽部」という2つの個性豊かな部活動があります。対照的な世界で活動する生徒たちに、競技の魅力や成長の実感を聞きました。

静寂の先にある、一発へのこだわり

静かに的を見つめ、呼吸を整え、引き金に意識を集中させる――射撃部の練習は、まるで自分の内側と向き合う時間のようです。細かな姿勢の調整やメンタルの安定が競技に大きく影響するため、日々の練習では反復と集中が欠かせません。

響き合う音、受け継ぐ舞

太鼓の音が練習場に鳴り響くと、舞に入る生徒たちの表情が一気に引き締まります。神楽部は、地域の神楽団から指導を受けながら、伝統の舞を高校生ならではの感性と力で表現しています。

現在の部員は3人。その全員が1年生で、試行錯誤を繰り返しながら、和気あいあいと部活動に取り組んでいます。

静と動、異なる世界で活動する射撃部と神楽部。しかし、話を聞くと、どちらの部にも「自分自身と向き合う時間」を大切にしている共通点がありました。西城紫水高校の放課後には、今日も多彩な挑戦が息づいています。

問い合わせ

本記事に関する内容などに関すること 行政管理課広報統計係(☎0824-73-1159 / メール koho@city.shobara.lg.jp) 広島県立西城紫水高校 教頭 平井(☎0824-82-2511)



西城紫水高校の魅力

Point 01 少人数授業

少人数制の特長を生かし、一人一人の理解度や個性に応じた、きめ細かな指導を行っています。質問や意見交換がしやすく、生徒と教員の距離が近いことも大きな魅力です。

Point 02 地域貢献

地域行事への参加やボランティア活動など、地域の皆さんと共に活動することを重視しており、学校はまさに「地域に育てていただく学びの場」となっています。

Point 03 荻野寮

学校から徒歩3分の好立地にある荻野寮。最大44人が入寮可能な寮では、現在、男子17人、女子5人が生活しています。部屋の中は、基本2人の相部屋で、お互いのプライバシーを守りつつ、共同生活を送っています。寮生は朝・昼・晩と1日3食、寮の食堂で温かい食事が提供されます。



⑤学校から約200メートルの距離にある荻野寮。ベッドと勉強机などがあります。



③西城小の児童と一緒に地域の高齢者にプレゼント。



①分からないところは丁寧に説明！少人数を生かして、一人一人にきめ細かな授業を行っています。



⑥温かい食事をみんなで囲むひとときが、毎日の楽しみです。



④地域の人を講師に招いて、そば打ちを体験！



②授業では実験をしたり、野菜を育てたりすることも。